

1学年だより

夢の宅配便

1年学年主任
水野 嘉代治

城山中学校

城山中学校の校訓の一つは「自治の精神」である。この校訓は、城山中学校の開校以来のものであり、脈々と生徒と職員に受け継がれてきたDNAです。太平洋戦争前の国家のためにすべてをささげる国家主義(ファシズム)の考えで、かけがえのない命が奪われました。太平洋戦争後、大日本帝国から日本国に名を変えて新しい国家がスタートしました。この国が目指すものは、一人ひとりの意見や考えが何よりも大切にされる民主主義国家でした。日本国のもとで、新しい教育がスタートしました。どんな立場の生徒も尊重され、能力に応じて等しく教育を受ける権利が保障されました。

国家にとって必要な人材を育てる教育から、一人ひとりの個性を最大限に伸ばす教育に大きく変わったのです。学校の主人公が生徒になったのです。大日本帝国では、小学校の6年間は義務教育でしたが、日本国では新たに中学校(3年間)を設けて、合計9年間は義務教育の期間にしました。1945年に太平洋戦争に敗戦して、1947年に小田原市で最初に開校した第一中学校がこの城山中学校なのです。

その時の校訓が、生徒自らの手で築き上げる学校ということで、「自治の精神」が掲げられました。それ以来、74年間の歴史の中で城山中学校の高まった自治的な活動があるわけです。

今から50年前の私が中学生の時、私の母校の千代中学校と比較すると城山中学校は特別な雰囲気のある学校でした。千代中は校則で、男子の髪が丸刈り(坊主)とされていましたし、靴は白の運動靴、カバンは男子はズックカバンでした。城山中学校の生徒は髪も自分の好きなヘアースタイルで、靴も自由でした。校則を先生方が指導を目的に決めていた千代中と、生徒がより良い学校生活にするために自分たちで決めている城山中学校では感じがまるで異なりとても憧れました。

今も城山中学校は、自分たちでいろいろな活動を考えて目的をもって学校生活を送っています。これは、本当に素晴らしいことだと思います。1年生も、自主的にロッカー整備を行ったり、レクを企画したり、調べ学習を深めたり、自治活動を行えるようになりました。これからは、自分たちの活動を振り返って、改善点を明確にしてさらに高まった組織的な活動をしていってほしいと思います。そのためには、必ず活動した後、振り返りをすることが大切です。活動して終わりではなく、この活動はどうだったのか反省をして、良かったところは更に伸ばし、良くなかったところは改善することを全体で確認していきましょう。組織的な活動ができるようになったら、地域に貢献できること、社会に訴えられることを探して、中学生としてできる事に挑戦して欲しいです。そのような社会的な活動に取り組めたときに、教科で身につけた知識が活用できることがわかるはずです。もうすぐ、2年生です。自分の身の回りから地域を「みれる」ような中学生に成長してください。楽しみにしていますし、応援しています。